

第2回 練馬区教育振興基本計画懇談会要点記録

- 日時 平成23年10月6日(木) 18:30~20:30
- 場所 本庁舎5階 庁議室
- 出席者 廣嶋座長、小林副座長、渡邊委員、石橋委員、眞瀬委員、木下川委員、田中委員、宮崎委員、伊藤委員、斉藤委員、佐藤委員、長井委員、真島委員
- 欠席者 風間委員、高井委員、玉井委員
- (事務局) 学校教育部長、新しい学校づくり担当課長、学務課長、施設給食課長、教育指導課長、総合教育センター所長、統括指導主事、庶務課長、庶務課庶務係職員2名、ジャパン総研2名

案件

- (1) 区民意識意向調査の結果について
- (2) 今後10年間を通じて目指すべき練馬区における教育の姿について

配布資料

- (1) 区民意識意向調査の結果について ……資料1
- (2) 練馬区教育振興基本計画に係る意見シート ……資料2-1
- (3) 練馬区教育振興基本計画施策体系(案) ……資料2-2
- (4) 他自治体における教育振興基本計画の基本理念等について ……資料2-3

1. 開会

【座長】

本日は、お忙しいところお集まりいただきありがとうございます。ただ今より、第2回練馬区教育振興基本計画懇談会を始めさせていただきます。

2. 小林副座長自己紹介

3. 議事

(1) 区民意識意向調査の結果について

事務局より、資料1に沿って説明

【座長】

今回は、区の現状把握ということで、それぞれの立場からのご意見を頂きましたが、今回は、この調査結果を基にして、現状把握の続きをしたいと考えています。6項目ありますので、1項目ずつ順番に、皆様のご意見、ご質問等を伺いたいと思います。

まず、(1)「区の児童・生徒への要望」について、ご意見、ご質問等ございますか。

【委員】

児童・生徒というのは、何歳の子供を指すのですか。

【庶務課長】

小・中学生です。

【委員】

「思いやりがある」が66.8%と、最も多い結果になっていますが、私は、学校に対する本当の要望は、学力の向上だと思っていたので、この結果は不思議に思うところがあります。これをそのまま真意ととらえていいのかどうか、精査する必要もあるのではないかと感じています。

【委員】

アンケートの取り方として、練馬区の児童・生徒がどのようになってほしいと望むかを問うのに、回答の選択肢が「思いやりがある」とか、「人の話を聞ける」などというのは、少しレベルが低いのではないかと思います。練馬区の子供たちには困難な社会や時代を自ら切り開いて、これからの社会を改革してほしいと考えますので、もっと高い理念や使命感が必要だと思うことから、そのような聞き方をしてほしかったです。

また、「思いやりがある」が最も多いということについては、裏を返せば、思いやりのある子供が少ないと、区民が感じているとも読めると思います。

【委員】

これは模範的な回答結果になっており、現実には、かなり意見が違うのではないかと、私も感じています。小中学生というと、まだ人格形成のプロセスの途中なので、その時点で人間性の形成を求めるといった設問はおかしいと思います。私が小中学生に一番望むのは学力です。その時代でなければ覚えられないこともあるので、小中学生の時代には学力を徹底的に付けるべきだと思います。また、人間社会においては競争力が非常に重要なので、子供の時から競争力を付けさせるということも必要だと思います。

【委員】

私は、この選択肢の中から選ぶのであれば、「思いやりがある」を選ぶと思います。しかし、私が大切だと思う思いやりというのは、単に優しいとかというような曖昧なものではなく、資料2 - 3の1ページの、2の(1)に書いてあるような、「相手の考えや気持ち、立場などを想像し、新たな関係や社会を創造していく力」という意味での思いやりです。他者との人間関係を、楽しみながらアクティブにつくっていくには、相手の考えや気持ち、立場等を思いやれることが大事だと思います。今の子供たちには、そういう力が不足していると思うので、そういう意味での思いやりが必要だと思っています。

【座長】

今のご意見は、2番目の資料の教育振興基本計画にも連動してくるので、そこでも議論できればと思います。

つぎに、(2)「区立小中学校の教師への要望」について、ご質問、ご意見等はありませんか。

【委員】

この項目についても、先ほどと同様、教師への要望として高い結果となっている項目が、今の教師に不足している部分だという見方ができると思います。

また、「児童・生徒の良い面・得意な面を伸ばす教師」が2番目に多いですが、先ほど意見が出ていたように、競争させて育てていくということを望んでおられるのではないかと思います。

【委員】

9月26日の新聞に、ベテラン教員の意欲が無くなっているという調査結果が載っていましたが、私はその記事を読んで、非常に嘆かわしく思いました。意欲が無くなる原因として、仕事が楽しいと感じている教師が20代では80%いるのに対し、50代になると59%に減ってしまうとありましたが、教員というのは、自分が楽しいかどうかにかかわらず、自分の責務を果たすべきです。私は、教師には、プロ意識を持ち社会的責任を果たすことを望みます。

【座長】

様々なタイプの教師がおられますし、教師に対するイメージも人によって違うと思うので、様々な意見が出て当然だと思います。社会的な責任を重く感じてほしいという思いが強いためか、教師に関する調査では、厳しい意見は多く挙がる反面、いいところについては挙がってきにくいという面もあると思います。

つぎに、(3)「区の教育活動への要望」について、ご意見、ご質問等がありますか。

【委員】

こういう時代なので、「命を大切にする、人権教育や道徳教育の充実」や、「基礎基本の学力の充実」等が大切だということも分かりますが、経験不足のために応用がきかないという子供が多いように感じるので、「応用力を付けさせる教育の充実」も重要だと考えます。

【委員】

例えば命を大切にする人権教育など、抽象的で人によって考え方が違うものについて、学校等ではどのように教えておられるのがイメージできません。

【座長】

小中学校や幼稚園では、人権教育や道徳教育はどのように行われていますか。

【委員】

幼児の教育というのは、授業伝達教育ではなく、生活そのものが教育ですので、人権教育や道徳教育は日常にちりばめられており、かえってやりやすいと感じています。一方、学校では学科教育が中心になりますので、その中で命に関する教育等を行うのは、非常に難しいのではないかと思います。実際、自分の園の卒園者や保護者の話を聞くと、そこは大きな問題だと感じている人が多いようです。これは、決して、単に道徳の授業をやることで解決できるものではないと思います。小学校以上の学校生活の中に、自然な形で織り込んでいくことが重要だと思います。

【委員】

大泉桜学園では、命の教育を中心に全教育を進めています。人間には必ず、生まれてきた命の役割があります。子供たちに、自分の命の役割に気付かせて、そこから人生の歩み方や人間関係のつむぎ方を培っていきたいと考えています。具体的には、学校の中に水田を作り、そこに集まる昆虫を観察させたり、稲を収穫させ、わらをリサイクルさせることで、命の在り方や環境、食育の意識を育てるとか、家庭科の調理実習では、切り身の魚を買ってくるのではなく、1尾の魚をさばいて、命を頂くということを考えさせるなど、様々なアプローチから命に関する教育を行っています。

私は、この設問については、命の教育や環境教育と小中一貫教育が同列で挙げられているところに、違和感を覚えます。教育という言葉は付いていますが、カテゴリーが違うので、並べて比べられるものではないと思います。

【座長】

確かに、小中一貫教育というのは、この中では異質な選択肢かもしれません。

【委員】

私の小学校では、例えば、牧場での牛の乳搾り体験を通して、この牛は牛乳が出なくなったら、牛肉になって食べられてしまう、つまり、みんなはこの牛の命を食べているのだということを教えるというような取組を行っています。

また、自分が大切なかけがえのない命なのだということを感じられない子がとても多いことから、自分自身の有用感を育てるということも大切にしています。例えば、1年生と6年生とか、3年生と5年生という兄弟学年をつくって、高学年の子が低学年の子を世話することで、小さい子にありがとうと言われて、自分が役に立っていると実感させるとか、全員に何かの役を持たせることで、自分が必要とされているという感覚を教えています。自分の大切さが実感できなければ、人の命の大切さは分からないと思います。自分が大事な存在で、親からも大事にされているということが感じられてはじめて、隣の人も大事な1人だということが分かるのだと思います。

【委員】

3月11日の大震災によって、防災教育というものが注目されていますが、その原点にあるのは、自分の命を自分で守るということだと思います。そこでは、この中にある判断力というものが、非常に重要だと思います。大震災の中で、小学校で校庭に並ばせて点呼を取ったために逃げ遅れたり、自動車で逃げようとして渋滞になったり、船をつないでしまったために沈没してしまったというのは、全体的確な判断ができなかったためだと思います。判断力というのは知恵です。命を守ることのできる知恵を身に付けさせておくことも非常に重要だと、今回の震災をとおして痛感しました。

また、ここの中に、思考力というものもありますが、私は、疑問を持つということがとても重要だと考えています。何に対しても疑問を持ち、それを解決し、解決することによって発展し、またつぎの疑問が生まれるというようなことが、人生においては非常に大事だと思っています。

【委員】

これまでに出示された意見と重複しますが、幼稚園では、日々の生活の中で人権教育や命を大切にする教育を実践しています。例えば、遊びの中でけんかになったときには、それぞれの言い分をまず聞いて、相手が何を嫌がっているのかということを伝えて、仲良くするにはどうしたらいいかを考えさせ、人の気持ちも自分の気持ちも大切にすることを学ばせています。そのような体験をするうちに、自分の大切に気付き、人も同じように大切だと気付き、それが命を大切にするということにもつながっていくのではな

いかと思っています。

【座長】

ありがとうございました。今までのご意見を聞いていると、区の教育活動への要望については、納得できる項目が挙がってきているということだと思います。

【委員】

この設問で最も多いのは人権教育や道徳教育の 55%ですが、これは、足りないということの裏返しなのか、それとも、現在もできているけれども、さらなる充実を望まれているということなのかによって、今後の対策が変わってくると思います。今、話を伺っていると、学校はとても良くやっておられるようなので、学校教育に全く関わっていない方もこのアンケートに答えているということもあり一概には言えないですが、区としてその活動を是非やってほしいということで今後の対策を考えてみたほうが良いと思います。

【座長】

区としては、「命を大切にする、人権教育や道徳教育の充実」を重点的にやっているのですか。

【教育指導課長】

教育委員会では、人権教育は学校教育の基盤と考え、練馬区の教育目標や基本方針の中に位置付けて、命に関わる教育を各学校にお願いしています。その部分なくしては人格形成もあり得ず、学力や体力よりも基本的なことだととらえています。

【座長】

区では、人権教育は共通して各学校に重点的にお願いしていると理解してよいようです。

つぎに、(4)「区の教育施策として期待すること」に進みます。ご意見、ご質問等はありませんか。

【委員】

「いじめや不登校への対策」が一番多いことについて、今、いじめによる自殺等も問題になっていますが、それを無くすためには、先ほどの、命を大切にする人権教育や道徳教育の充実や、思いやりのある子を育てたいということとつながりがあるように感じます。

【座長】

私も、この(3)と(4)は関連があると思います。

トップが「いじめや不登校への対策」となっているのは、昨今の現状から予想はつきませんが、「小中9年間の一貫教育の推進」が11.3%もあるというのは、まだ始まったばかりの取組にしては、意外に高い数字だと感じる一方で、区が重点的に取り組もうとしているわりにはもの足りないという両方の見方もできるかと思いますが、委員の皆さんは、小中一貫教育の推進については、施策としての期待度はありますか。それとも、まだ実態が分からない状態でしょうか。

【委員】

私は、教育の形はいくつもあっていいと考えています。そして現在の6・3制も含め、行政は、色々なことのバランスを考えて推進していただいていると感じています。

しかしながら、区がそのように努力していただいている一方で、保護者が特徴を伸ばすことばかりにこだわって、学力などの基本的なことも部活動を優先して、中学校を選んでいるケースが多いことが気になっています。中学校の親としては部活動についてアンケートでは拾われていないのは残念なところがあります。

【委員】

(3)でもそうでしたが、(4)の設問の選択肢の中でも小中一貫教育は異質に感じるので、小中一貫については、違った形の聞き方をしたほうがいいのではないかと思います。

【委員】

小中一貫というのは、各区によってやり方が違うのですか。例えば、北区はファミリー制度をとっているということですが、練馬区ではどのような形で推進していこうとされているのかが分からないと答えようがないと思います。

【座長】

教育委員会から説明をお願いします。

【新しい学校づくり担当課長】

小中一貫教育については、全国的に定義が決まっているわけではなく、自治体によっては連携教育という言い方をしているところもあります。

練馬区で小中一貫教育について今検討しているのは、義務教育の9年間の中で、つながりを持った教育活動をしていくということを考えています。具体的には、中学校でどんな指導方法をしているかを分かった上で、小学校で教える。逆に、中学校でも小

学校の教え方を分かった上で教えるというように、指導方法につながりを持たせたり、それぞれの単元においても、つながりのある形にしていくことを検討しています。さらに、児童・生徒間でも、異学年での交流ができればと考えています。

【委員】

以前のような学区制であれば、小学校と中学校の間でのカリキュラムの統一等もしやすいと思いますが、今のように選択制をとっていると、学校によっては複数の小学校から子供が集まることになるので、一貫教育というのは難しいのではないですか。

【新しい学校づくり担当課長】

選択制をとっているいないにかかわらず、通学区域の関係で、小学校と中学校の学区が一致しているわけではありません。1つの小学校から2つの中学校が指定されていたり、中学校によっては5つの小学校から指定されているところもあります。

委員のところで始めていただいているような、1つの学校として9年間教える小中一貫教育校という形もありますが、私が先ほど話したのは、練馬区総体として、小学校と中学校でつながりのある一貫した教育を全体的に進めていく仕組みづくりをするというものです。

【委員】

小中一貫教育で実績を挙げるには、教職員が小中両方の教員免許を持って、先生同士が交流することも、効果的だと思います。そうして、先生方が切磋琢磨していけば、子供たちの学力向上にもつながるのではないかと思います。

【教育指導課長】

小中一貫教育の本来の目的は、学力の向上です。現状では、小学校と中学校で先生方のものの考え方がある意味違っているところもあるので、小・中の中で継続性を図り、義務教育の9年間の中で学力を付けたいと考えています。そのための方策として出てきているのが小中一貫教育なのです。

また、先ほどの不登校とかいじめの問題について、中学校に行くと不登校が多くなるのですが、その芽は小学校のときにあるので、一貫教育にすることで対応ができやすくなると考えられます。

【座長】

小林副座長は一貫教育を専門的にやってこられた経験もお持ちなので、その良さや可能性について少しお話しいただければと思います。

【副座長】

小中一貫教育については、今、学力向上や不登校の防止に効果が期待できるという話がありましたが、不登校の例をお話したいと思います。

中1ギャップという言葉があるように、中1になると格段に不登校の数が増えるのですが、これは、例えば、小学校では私服なので髪飾りは可愛いと褒められていたのに、中学になると制服になるので、髪飾りは注意をされるのです。このように、小学校6年の3月から中学1年の4月の1月の間に、全く環境が変わることに対応できず、不登校になるケースが多いので、ゆるやかに接続していくような学校があってもいいのではないかとということで、小中一貫教育が考えられているという面もあります。先ほど、選択制を危惧するご意見がありましたが、逆に言えば、そういう面で選択ができるというメリットも考えられると思います。

また、指導という視点でも、小学校の指導と中学校の指導というのは非常に違うので、一貫してやっていければ、無駄を省いたりとか、精度を高めていくという点で、かなり有効性があると思います。

私の前職は、品川区の一貫校だったのですが、高学年の子が低学年の子の面倒をみることで穏やかになるとか、低学年の子は高学年の子を見習って一生懸命やるようになるなど、少子化で異年齢で遊ぶということが少なくなっている中で、貴重な体験だと思いました。

私の体験から小中一貫教育について話しましたが、小中一貫教育が全ていいと言っているわけではありません。学力向上や不登校の予防などを実現するための、1つの方策と理解していただきたいと思っています。

【委員】

品川区が小中一貫にしたのは、中学受験をする子たちを囲い込みたかったからだという話を聞いたことがあります。練馬区では、学校を大切にしながら、緩やかな形での小学校と中学校の連携をとっていただきたいと願っています。

【座長】

小中一貫教育についても、教育振興基本計画の中で出てきますので、その際にまた議論したいと思います。

(5)「学校と地域のつながりを深める為に重要なこと」に進みます。ご質問、ご意見等はありませんか。

【委員】

私は、主任児童員と地域の青少年育成地区委員会の会長をする中で、家庭、学校、地域が三位一体で子供を育てていくということが、今後、一層重要になっていくだろ

うということを実感しています。そのためには、地域力を高めて、地域みんなが子供たち一人一人を大切に思っているということを発信していくということが非常に重要なので、これから大いに関心を持っていただきたいと思います。

【座長】

3つの中でどれが大事ということではなく、この調査のテーマ自体のパイプを太くしたほうがいいというご意見だと思います。

【委員】

私は、小学校の出前授業に行くとか、地域のイベントで学校の生徒さんに出演をお願いするなど、地域と学校の様々な交流を図っていますが、地域を生かすのは、学校の受け入れ次第だということ強く感じます。閉鎖された学校と、地域に開かれた学校では大きな差があると思います。

【委員】

確かに、地域の人の受け入れに関しては、学校によって差があります。そのような中で学校と地域のつながりを深めるためには、時間をかけて信頼関係を築くしかないと思っています。

【委員】

私も、学校を支えるのは地域だと思っていますが、地域とつながりを持つかどうかは校長先生次第で、学校によっては地域の方を入れることに対して警戒しておられるところもあります。それをうまく解きほぐして、コンタクトをとっていくということが非常に大切だと思います。

【委員】

地域によっては、地域のひとかたまりと一部の子供だけで交流しているという傾向があると思います。サラリーマンが多い地域ですと、地域の方とのつながりは本当に少なく、イベントをしても、地域との交流に協力的な人の子供だけが集まるという状態です。また、最近、母親も働いている家庭も多いことなどから、普段の昼間には住民がいないため、小学校の周りの家々は昼間はひっそりとしています。そういう所における地域とのつながりということも、これからの大きな課題だろうと思います。社会で子供を育てようと言いながら、実態は逆の方向に進んでいるので、そのギャップを埋める方法をみんなで考えていかなければならないと思っています。

【座長】

その辺のことは、大事なポイントになってくると思います。

学校には、学校で地域の受け入れのための専門の窓口がないという事情もあるのではないかと思います。

この地域とのつながりという部分については、委員からお話を聞かせていただければと思います。

【委員】

主任児童員というのは、不登校のお子さんや問題をかかえているお子さんと、そのご家庭を、各専門機関につなげるという役目をしています。そういう関係で学校に出入りすることも多いのですが、同時に、落花生狩りやキャンプ等を企画して、先生や子供たちに参加していただき、地域でのお互いの様子を見てもらうなどして先生と子供たちとの距離を縮めると同時に、地域の学校との距離を縮めるように心掛けています。

【座長】

キーワードは、信頼関係ということでしょうか。

【委員】

そうです。時間をかけて信頼関係を構築することが大事だと思います。

【委員】

学校を見ていると、特に中学校の教師の人員に余裕がないとい話も聞きましたので、活動される方たちは、そういうことも念頭に置いておく必要があるのではないかと思います。

【座長】

その辺りも大事なことなので、教育振興基本計画の中で、みんなで知恵を出し合っていければと思います。

では、最後の(6)「児童・生徒の家庭生活で重要なこと」について、ご意見、ご質問等頂きたいと思います。

【委員】

ここに挙がってるようなことは、重要なことというより、日々の生活習慣の中で身に付けさせるべき、当然のことだと思います。

【座長】

裏を返せば、その辺りがうまくいってないと、区民が感じられているということかもしれません。

【委員】

今、政府で検討されている子育て新システムの中にも、家庭教育というのは一切入っておらず、社会全体で子供を育てるということを曲解されて、みんなが責任を放り出してしまふことを大変心配しています。教育の基本は家庭や親であるということを前提に、家庭教育や地域における教育、学校教育の役割を明確にする必要があると思います。

【座長】

確かに、役割ということも重要だと思います。

それでは、一通りお話を伺いましたので、それを踏まえて、後半の議題に入りたいと思います。

(2) 今後 10 年間を通じて目指すべき練馬区における教育の姿について

事務局より、資料 2 - 1、資料 2 - 2、資料 2 - 3 に沿って説明

【座長】

資料 2 - 1 は、皆さんに記入いただき、次回以降は、それに基づいて議論を進める形になります。資料 2 - 2 は、資料 2 - 1 を記入していただく参考として、現在行っている事業を、教育の質の向上、家庭・地域社会と連携した学校経営の実現、教育環境の充実の、3つのくくりで整理し直したものであるということです。

では、ご意見、ご質問があればお願いします。

【委員】

進め方に異論はないですが、資料 2 - 1 について、この 1 ~ 3 の分け方はこれでよいのか疑問があります。

また、2 番目は「家庭・地域社会と連携した学校経営の実現に向けて」となっていますが、学校経営というのは校長の視点の表現で、家庭・地域・学校がいかに連携すればよいかという観点から項目立てを考えた方がよいのではないかと思います。

【座長】

確かに、学校経営という限定されてしまうので、「連携した教育の実現」くらいの

表現のほうがいいかもしれません。ここには、経営の部分だけではなく、教育委員会の施策等も関わってくると思いますし、学校の中に園が入るのかどうかという問題もあります。その辺りについては、ここの議論の中で調整していくのですか。

【庶務課長】

このくくり方については、第1回目の懇談会の議論、および国の振興計画を踏まえ、教育の質の向上、地域との連携、教育環境の整備という3つの大きな柱を基に分けています。

【座長】

このくくりについては、今後変わっていく可能性もあるけれども、差し当たり、この3つに分けているということだと思います。

【庶務課長】

そのとおりです。

【委員】

1に、「豊かな学力(知)、豊かな心(徳)」とありますが、このように書くと、知というのは学力しかないというふうにとらえられるのではないかと思います。9年間の学校生活の中では、知についてはもっと幅広く、学力以外の知も育っていくはずですし、徳と絡めた知もあると思います。そのように理解して書いていただくと、より書きやすくなるのではないかと思います。

【座長】

ほかに、内容の議論の前に調整しておくべきところはありませんか。

【委員】

2番の2)の「地域の教育力」という意味がよく分かりません。

【座長】

地域の教育力について、どなたかご意見はありませんか。

【委員】

私は、積極的に地域の教育力を学校の中に取り入れたいと思っています。具体的には、例えば、会社も退職された社会経験豊かな方に、放課後の補習活動などで協力をお願いするなどの形で、一緒に教育に取り組んでもらえるような仕組みをつくりたい

と思っています。また、青少年育成の活動と連携していくことも大事だと思います。ところで、私は、地域という言い方がとても曖昧に感じます。小学生にとっては、自転車で遊びに行けるくらいの範囲だと思うし、中学生ではもっと広くなると思います。さらに、教員や青少年育成の方たちの言う地域というのは、また違うので、分かりづらい部分があると感じます。

【座長】

一般的に地域というと、学校の身近な所という意味合いだと思いますが、考え方によっては、練馬区全体を指す場合もあると思います。地域がどの範囲かということを確認に限定する必要がありますか。

【庶務課長】

地域については、区の基本構想の中では、練馬区全体を1つの大きな地域とみる考え方、郵便番号単位で4つに分ける考え方と、民生委員あるいは出張所の単位で20くらいに分る考え方、小・中学校の顔の見える範囲の小さな地域という、4層の考え方とらえています。そのほかにも、地域の範囲については様々な考え方があると思いますが、それぞれについて議論するのは難しいのではないかと思います。

【座長】

2番の項目立てについては、もう少し検討する余地があると思います。例えば、「地域」とするか「地域社会」とするかでも、意味合いが違ってくると思います。

【委員】

2の1)の「家庭の教育力の向上」についても、よそのお宅のことまでに踏み込めないところがありますし、理想論を言っても仕方がないので、書き方が難しいと思います。

【委員】

「教育力」というように「力」が付いているために分からないのだと思います。「家庭の教育力」ではなく「家庭教育」、「地域の教育力」ではなく「地域による教育」であれば意味がわかると思います。

【座長】

教育力という言葉が、イメージがわきづらいという意見がありますので、事務局のほうで少し検討いただければと思います。例えば、資料2 - 2から、家庭教育の問題であれば、家庭教育への支援の方がわかりやすいのではないのでしょうか。

【委員】

地域の教育力については、PTAがある学校とない学校ということでも、違ってくると思います。

【委員】

私も、地域の教育力という表現には非常に抵抗を感じます。教育力というよりも、地域との関わりというような表現のほうがいいと思います。

私はPTAの育成活動で、潮干狩りとかスケート教室とかで子供を引率するのですが、そういう中で、地域の方というのは学校とは違った指導をするのです。例えば、騒いで言うことを聞かない子に対して、地域の方は、そんな子はこういう所に来てはいけないと言って子供をしかるのですが、学校の先生はそういうことは言えないと思います。時には、そのようなしかり方をされることも必要だと思います。地域の人との関わりにより、色々な角度から子供に刺激を与えられると思います。そうして、打たれ強い心を持つことができれば、いじめで悩んで自殺をするような子も少なくなると思いますし、自分の身を自分で守る力につながると思います。

地域と関わりを持つ中で、結果的に力が付くということが重要だと思います。

【委員】

私は体験学習を通じて多くの小・中学生と接しています。その中で、今の生徒・児童は知識はたくさん持っているけれども、知恵がないということを感じます。例えば、体験学習で、練馬区の資産を生かして竹細工などをするのですが、木元竹裏という言葉教えて、木は下から割り、竹は上から割ることや、竹を割ったような性格という説明をして、知恵を教えています。また、そうして接する中で、子供の行動を叱るような場合は、必ず、その理由を言うようにしています。これも大事だと思います。親切とおせっかいの区別を付けるということも教えています。

このように、1つの体験を通じ、人間社会で生きていく上での知恵を教えるというボランティア活動を、ここ10年くらいやっております。

【委員】

2番については、地域を学校の近隣というミクロでとらえてもいいし、区全体としてマクロでとらえてもいいと理解しました。

3番の「教育環境の充実に向けて」については、資料2 -2を見ると、教育環境というのが学校内に限定されているように思いますが、ここは学校内の教育環境と考えればいいのですか、それとも、広い意味で地域なども含めた教育環境を意味しているのですか。

【庶務課長】

3番は、事務局でも悩んだところですが、1番と2番については、第1回の懇談会で頂いた意見等を踏まえて、このように当てはめたのですが、そのどちらにも当てはまらなかったものを、3番に挙げているというのが実情です。この全体の整理についても、ご提案等があれば頂きたいと思っています。

【委員】

3番は、学校に限らなくてもいいということですか。

【庶務課長】

広くとらえていただいてもいいと思っています。

【座長】

このシートについては、あまり厳密に考えずに、それぞれの立場から強調したいことなど思ったことを自由に書いていただいて、それを集約したものをたたき台に議論を深めていくような進め方にしたいと思います。

【副座長】

このくくりについては、様々なご意見が出ましたが、私は逆に、まずは皆さんがそれぞれの立場での思いの丈をここに書いていただき、それを集約していく中で、結果的にいくつかのくりに固まっていき、懇談会としての提言もまとまるのではないかと考えています。

また、これは学校教育振興基本計画ではなく、教育振興基本計画なので、一步踏み込んで、家庭はどうあるべきか、地域はどうあるべきかまで提言し、それに応えるように学校教育を進めていく。学校、家庭、地域が核になっていくというスタンスが大事だと思います。

【座長】

今、言われたとおりだと思います。これを全部網羅的に書くのは大変なので、ご自分の得意とするところや、関心のあるところについて、忌憚のない意見を書いていただきたいと思います。

【庶務課長】

それで結構です。

【座長】

それでは、最後に、お一人ずつお話を伺いたいと思います。

【委員】

議題1の調査結果では、区民が求めていることは現状に即しているということを感じました。また、議題2では、教育振興は学力の向上だけを目的にしているのではないということを確認できました。私も、家庭教育や地域の力を充実して、はじめて学校教育が成り立つと考えています。私の得意分野は地域力の部分ですが、その観点から、今後、子供たちの虐待、非行等の問題が改善できるような方策を探っていきたいと思っています。

【座長】

ぜひ、そういう提案を書いていただきたく思います。

【委員】

今日頂いた区民のアンケート結果について、実際に現場で働いている教員の方はどうに思っているのかということも知りたいと感じました。区や区民が求めていることと教員が違うベクトルに向かっていたのでは、良い教育はできないと思います。もし、教員と区民の間に、意識の違いがあるのであれば、そのギャップをどう埋めていく必要があると思うし、それぞれが、学校、地域、家庭において何が不足していると感じているのかが分かれば、問題解決の糸口になるのではないかと思います。

【座長】

現場で働いている方というのは、校長とか園長ではなく、一般の教員という意味ですか。

【委員】

そうです。担任を持っているような先生です。

【委員】

私は、家庭での日頃の生活が大事だということを感じました。また、アンケート調査結果について、要望が高い項目というのは、そこが不足しているという声でもあったと感じました。

【委員】

練馬区の基本計画でも協働ということをやっていますが、それは教育の場面でも同

様だと思えます。また、資料2-3の3ページの教育委員会の教育目標に「学びのまちねりま」とありますが、練馬区には、緑被率が26.1%で、23区中で最高とか、農地が258ヘクタールあって、23区中で最高といった特色がありますので、練馬らしさを生かしたような教育目標をつくっていただきたいと思えます。

【委員】

私は、転勤族であまり自分の子供の教育に関わらなかったもので、アンケート結果の16ページの「児童・生徒の家庭生活で重要なこと」というところは、身につまされる思いがします。それと同時に、練馬区の中でも、私のような転勤族が多く住んでいる団地のある地区と、商売をやっておられる方が多い地区では、学校の雰囲気も相当違うと思うので、そういう所で教育に携わっておられる方は、大変苦労されているのではないかと感じました。

私は練馬区の特徴も分かりませんし、教育に携わったこともないので、このシートは非常に書くのが難しいというのが率直な気持ちですが、自分の経験を生かして、私なりの意見を書きたいと思っています。子供が私立の中高一貫に入っていたので、その部分に関しては少し分かるのですが、ここでは小・中およびそれより下の子供たちを対象としているのですか。

【座長】

高等学校については、練馬区の教育委員会の管轄ではないので、ここで扱うのは中学校までになります。

【委員】

今日の話は漠然としているので、今日の資料を頂いた時には、どのように読み取ったらいいいのか悩んでいたのですが、様々な話しをお聞きして、今回も大変勉強になりました。

調査結果では、(1)「区の児童・生徒への要望」の中で、「自立心がある」と「創造力がある」のパーセンテージが低いことが気になりました。自立心や創造力というのは、これからの世の中を生き抜いていく上では不可欠のものだと思えます。そこで、つぎのページの下グラフを見ると、創造力を望むのは女性よりも男性が10ポイントも高くなっており、社会的な経験が豊富な男性のほうが、その辺りに危機感を感じておられるのではないかと感じました。大変興味深い資料だと思えます。

【委員】

私たちPTAの役割というのは、地域、学校、家庭の橋渡しだと考えています。学校、地域、家庭が連携して子供を育てていくためには、地域の方が子供たち目を向けてい

ただけるよう、育成の活動や行事に加わるということも、1つの大事な手段だと思っています。私たちが橋渡しをすることで、子供を取り巻く皆さんが、それぞれで責任をもって大事に育てていくような体制ができればと願いつつ、PTA活動をしています。

【委員】

私は幼稚園の立場からの教育振興基本計画について、意見を述べたいと思います。先ほど、幼稚園が学校の中に入るのかという話が出ましたが、学校教育法の中では、幼稚園は学校の中に入っています。この計画の中では、幼稚園をどのように位置付けられているのかが少し気になりました。

また、資料2-2の2ページの「就学前教育の充実」のところに、幼稚園に関する事業が挙げられていますが、学校教育を考える上では就学前教育の充実を抜きにしては考えられないと思います。また、小・中の連携だけでなく、幼・小の連携による幼児期からの学びの連続性ということも非常に大切な問題だと思います。

【座長】

ぜひ、そういう提案を書いていただければと思います。

【委員】

私個人の考え方ですが、幼稚園も含めると11~12年くらいの中で、子供が小さいときは、「なぜ？」という知的好奇心に対して、細かに教えてあげること、分かるとか、聞くということが楽しいと思わせたり、自分が親や地域に守られているということを実感させ、子供が大きくなったら、今度は「なぜ？」と疑問を持ったときに、教えてあげずに、自分で考えさせ、自分で調べたり、やってみたりして答えが分かることの面白さを教えるような教育の仕方が重要だと思っています。その中で、教師や地域、親等がどのように関わっていけば、今の子供たちの弱い部分を育てられるのだろうかということを考えながら、今日の話聞いていました。私なりに考えて、具体的な提案をしていきたいと思っています。

【委員】

先ほど、委員から、練馬らしい基本構想を立ててほしいという意見がありましたが、私も全く同じ気持ちです。私は退職まで練馬区で教員をしたいと思っていますのですが、それは、練馬区が、緑が豊かで都心から程よい距離にあるという特長に加え、行政が学校を大切にしてくださっていて、非常にやりがいを感じているからです。

特にやりがいを感じる取組の1つに、5年生、6年生、中1、中2による、少年自然の家を利用した宿泊授業があります。そこで共同生活をする中で、子供たちは我慢す

ることや規律を覚え、また、豊かな自然と触れ合うことで、自然に対する畏怖などを覚えていきます。また、中学生は教師と一緒に海の沖まで泳ぐことで、お互いの信頼感や達成感を学び取っています。そのような経験を通しての、子供たちの成長には目を見張るものがあります。また、スキー移動教室では、始めは滑れなかった子が、山の頂上から下りることができるようになり、涙を出して喜ぶ姿を見ることは、教師にとっても大変な充実感があります。そういう活動をより充実させることによる教育環境の整備ということも、この基本計画の中に打ち出してもよいのではないかと考えます。

一方で、学校教育の中では、孤立化する子供や家庭が増えてきています。まだ件数としては少ないですが、非常に解決が難しい課題だと思えます。そういう点にも焦点が当てられるような基本計画にしなければならないと感じています。

【委員】

教育については、学校教育と社会生活の両方を充実していなければいけないと思います。ある統計で、日本、韓国、中国のような、いわゆるガリ勉主義の国と、その他の国では、自分の親友をどこで見つけたかというところに大きな違いがあるということが分かりました。日本、韓国、中国では、学校と職場以外では友達をつくるチャンスが全くないのですが、その他の先進国では、あらゆる所で友達をつくっているのです。これは、つまり、日本の子供たちが、それだけ行動範囲が小さいということにほかなりません。こういうことが人間力にもつながってくると思うので、子供たちを学校とクラブ活動に押し込めてしまわず、人間力や応用力を持った子供に育てられるように、本当の意味の社会での子育てができる地域づくりをしていかなければならないと思います。

【副座長】

委員の皆さんから、それぞれの深い思いを聞かせていただきましたが、その中で、委員の幼・小の連携が大事だという話は、全くそのとおりだと思います。教育の中では、小中一貫も有効な方法だと思いますが、人間力を育成した上で学力を培うということを考えたとき、根元的には幼・小が基盤になると思っています。

幼児期からの心の教育については、平成9年に中教審が答申を出して注目を浴びましたが、これは神戸の連続殺人事件等を受けて、幼児期からの心の教育が重要だということが真剣に考え始められたためです。その後、長崎県でも、小学校6年生の女子児童が同級生を殺すという悲痛な事件ありました。その後、長崎県下で児童・生徒に悉皆調査をしたのですが、死んだ人間は生き返ると思うかという設問に、中学生でも約2割弱が、死んだ人間が生き返ると答えたということです。そういう状況を考えると、命を大切にするという取り組みも非常に大事だと思いますし、そのためには、家庭も地域も本気になって取り組み、リンクさせていく必要があると思います。

また、練馬らしさという指摘や、現場の先生の思いを聞くということも大事だと思

ます。

こういう懇談会は日本国中でやられていると思いますが、形骸化しているところも多いように感じます。練馬の子供たちが輝くために、踏み込んだかたちでの提言をしていかなければならないと思っています。

【座長】

ありがとうございました。

皆さんの、それぞれのお立場からの忌憚のないご意見を遠慮なく出していただくことで、小林副座長が言われたような、中身のある懇談会になると思いますので、資料2 - 1のシートについては、ぜひ、ご協力をお願いしたいと思います。

それでは、以上で議事を終了したいと思います。

6 . その他

【庶務課長】

第3回目の懇談会は11月上旬を予定しています。議題は、皆様から頂くシートを取りまとめたものを予定しています。その後の予定については、可能であれば、年内に次回を含めて3回くらい開催できればと考えています。

【座長】

それでは、以上で第2回練馬区教育振興基本計画懇談会を終了いたします。本日は、どうもありがとうございました。

(終了)